

## 集落営農組織を核としたタマネギの拠点産地づくり

### 1. 産地の概要(R4年)

【生産組織】JALまね斐川野菜部会

【生産者数】 32名

【栽培面積】 13.5ha

【出荷量】 442t

【販売額】76,187千円

【取組の背景】

出雲市斐川町では、品質の高い磨きタマネギの産地づくりを進めてきたが、黒カビ病の発生等により生産量が減少。

一方、斐川町の農地面積の約50%をカバーする集落営農組織では、米価の低迷により高収益作物の導入が急務となっていることから、**集落営農組織を拠点としてタマネギの生産拡大を推進。**



### 2. 取組の経過及び概要

#### (1) 作付規模ごとに機械化体系の提案

実演会を開催して作業時間を計測し、斐川町内の拠点毎に、栽培面積やほ場の大きさに応じた機械化体系(大規模、中規模)を作成して提案。

斐川タマネギ機械化体系

行程	中規模体系 (30a~1ha)	大規模体系 (1ha~)
植付	兼用全自動移植機 作業人数: 3人 作業能率: 1時間/10a	
畑上	茎葉処理機+堀取り 作業人数: 3人 作業能率: 3時間/10a	根切り ディーガー 作業人数: 1人 作業能率: 1時間/10a
拾上	アガール 作業人数: 3人 作業能率: 3時間/10a	ハーベスタ 作業人数: 5人 作業能率: 1.5時間/10a
運搬	運搬車 ホイルローダー又はリアフター	
収穫時間	6時間/10a	2.5時間/10a
合計時間	7時間/10a	3.5時間/10a

(参考) 小規模体系 (30a以下) : 合計時間 10時間/10a

#### (2) 機械化体系に応じた収支モデルの提案

R2年産の斐川町内の栽培実績や各作業にかかる費用を計算して、機械化体系ごとの収支モデルを作成して提案。

斐川タマネギ経営モデル (単位: 10aあたり)

機械化体系	中規模体系	大規模体系	(参考)水稲
所得①	122,893	115,893	46,346
総作業時間	63.6	51.3	19.3
労賃②(1,000円/h)	63,600	51,250	19,300
純利益(①-②)	59,293	64,643	27,046

算定データは鳥根県農業経営指導指針(H30)より引用、(参考)水稲は平坦地域 水田面積30ha規模

### 3. 取組の成果

#### (1) JAリース方式による機械化体系の整備

機械化体系の整備に当たっては、新規作付組織のイニシャルコストの低減を図るため、JAに働きかけてJAリース方式を採用。

#### (2) 共同育苗体制を整え新規生産者へ配布

JA斐川種苗センターで、R4年産から共同育苗を試験的に実施。

R5年産はトレイ2000枚(約460a分)程度を育苗し、希望する斐川町内の生産者に配布。

#### (3) 広域玉葱調製保管施設の利用による生産拡大

JALまねが、R4年度に乾燥と低温貯蔵能力のある高度化施設を整備し、栽培面積70haまでのタマネギを収容可能であり、斐川町内の栽培面積が順調に拡大。

斐川町内	R4	R5	増減
栽培面積	13.5ha	18.6ha	140%
施設利用組織	5組織	10組織	200%

#### 代表者から一言

機械化体系等を上手く活用し、目標の30haを目指して面積拡大したい。

江角典広 部会長

### 4. 課題と今後の取組方向

- (1) 排水対策や病害対策を徹底し目標収量5トン/10aの達成
- (2) 機械利用マニュアルを作成し、作業効率を向上
- (3) 大規模土地利用型経営体への推進による目標面積30haの達成